

【絶対値と数の大小】（教科書 P.19 から P.20 まで）

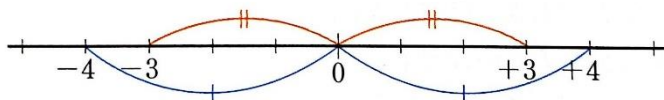
☆絶対値（これから学ぶ計算や性質で何度も使います。必ず覚えましょう！）

数直線上で、0 からある数までの距離を、その数の**絶対値**という。

ある数と、その符号を変えた数とは、数直線上では 0 からの距離が等しい＝**絶対値が等しい**

○ +3 と -3 は

0 からの距離が 3 ⇒ **絶対値が 3**



○ +4 と -4 は 0 からの距離が 4 ⇒ **絶対値が 4**

※ 距離だから符号はつかないよ！

P.19 問 1 を解く

ワーク (A) P. 4 **1**

(B) P. 5 **1**

	(1) -5	(2) +8	(3) -3.5	(4) $\frac{3}{4}$
絶対値				
符号を変えた数				

☆数の大小

数直線上では、右にあるほど数は大きく、左にあるほど数は小さい

正の数は負の数より大きい。正の数は 0 より大きく、絶対値が大きいほど大きい。

負の数は 0 より小さく、絶対値が大きいほど小さい。

大小関係は不等号を使って表す

○は△より小さい⇒ $\bigcirc < \triangle$ （○小なり△）

■は▼より大きい⇒ $\blacksquare > \blacktriangledown$ （■大なり▼）

※ 3 つ以上の大小は、不等号の向きをそろえて書く

（例）-4 , 2 , -2 の大小は $-4 < -2 < 2$

P.20 問 2 を解く

	(1) -4 と 3	(2) -5 と -2
大きい数		
絶対値が大きい数		

P.20 問 3 を解く

※ 不等号を使って数を表すとき、答えは不等号だけでなく、数も書こう！

(1) 4 5

(2) -3 -7

(3) -1.6 -0.6

(4) $-\frac{3}{8}$ $-\frac{5}{8}$

ワーク (A) P. 4 **2**・**3** (B) P. 5 **2**・**4**・**5**